

# 東京都認証保育所の園外活動における移動ルートに関する研究

羽室早瑛・伊藤史子

## A Study on the route to playing places in the Certified Day Nurseries' Activity

Sae HAMURO and Fumiko ITO

**Abstract:** In Tokyo, there are many certified day nurseries which are too small-scale to secure adequate garden. Playing outside is indispensable for their growth, nursery teachers have to take the infants to outside places such as parks, shrines and riverbeds. Under the circumstances, small children are exposed to many risk factors while they walk to the play space. In this research, we focus on the route from the facilities to the playing places in the day activity, to qualify the situation of the infants' walking environment.

**Keywords:** 認証保育所 (the Certified Day Nurseries), 園外活動 (the activity outside the garden), 歩行空間 (walking environment), 移動ルート (moving route)

### 1. はじめに

#### 1.1 研究背景

少子化の進む昨今においても、都心部での待機児童数は未だに深刻な状況にある。東京都独自の制度による認証保育所は、認可保育所のみでは満たすことのできない保育ニーズを補う重要な役割を担っている。認証保育所には、駅周辺の商業地やビルの一角に設置され、園庭の確保できない小規模の施設が多い。乳幼児にとって、屋外活動は生育に不可欠であり、このような施設では、周辺の公園等を利用した園外活動が実施されている。特に幅広い年齢の乳幼児を受け入れる A 型の施設では、この園外活動が義務付けられる。保育所の立地によっては、繁華街の通行を余儀なくされる可能性もあり、乳幼児に影響を与える重要な要素として、園外活動場所の特

性だけでなく、移動ルートについても、着目する必要がある。

#### 1.2 研究目的

認証保育所の園外活動では、車通りや人通り、歩道区分を考慮し、園外活動場所までの安全なルートを選択することが求められる。複数人の乳幼児の引率を伴い、多人数用ベビーカーの利用を利用している保育所もあり、普段の私たちの生活では意識することのない要素が障害となり、園外活動を阻んでいる可能性が予想される。園外活動場所までの距離や、公園の設備・規模のみで、単純に周辺環境を評価することはできない。

本研究では、2012 年 7 月、東京都の認証保育所 A 型を対象として行ったアンケートを元に分析を進める。東京都認証保育所の園外活動の実態を把握し、周辺環境を定量的に測るための基礎的知見を得ることを目的とする。

---

羽室早瑛 〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

首都大学東京大学院 都市環境科学研究科

Phone: 042-677-1111 (内線:4273)

E-mail: hamuro-sae@ed.tmu.ac.jp

## 2. アンケート調査の概要

### 2.1 アンケートの設計

アンケートの構成は、以下の通りである。アンケートでは、公園のみではなく、神社や河川敷等、園外活動場所の総称として『遊び場』を用いた。以降、本稿においても『遊び場』という言葉を使用する。

①施設の保育サービス全般に関する設問

②園外活動に関する設問

③その他自由記述欄

②の設問では、園外活動の頻度、日常的に利用する遊び場の数に関する問いに加えて、アンケート配布施設を中心にした地図を用意した（図 1）。各施設には、利用する頻度の高い順番に、3つの遊び場と、施設から各遊び場までの移動ルートの地図上への記入を依頼した。

### 2.2 対象地域

アンケートは、以下の特色の異なる都内3地域を選定、計76施設を対象に実施した。

①業務集中・再開発エリア…千代田区・中央区

②都市公園の多い一般市街地エリア…大田区

③商業地から住宅街までが徒歩圏にあり、街並みの変化に富む市部エリア…武蔵野市・三鷹市

本稿では、現段階で回答の得られている大田区に関する分析を報告する。大田区は23区内で最も都市公園数が多い地区であり、利用する遊び場、ルートの多様性が期待できる。区内には、現在36ヶ所の認証保育所が設置されている。本稿においては、一般市街地における歩行行動を対象とするため、羽田空港内に設置されている施設のみを除外した35施設をアンケート配布施設とした。アンケートの返却数は現在、8通（回収率23%）である。

## 3. 調査結果

回答を得られた施設の概要は、図2に示す通りである。遊び場を20ヶ所（施設での重複あり）、施設から遊び場へのルートは22ルートを、空間的に把

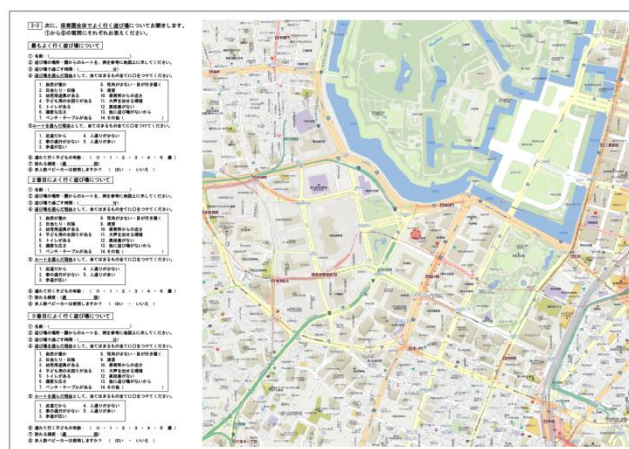


図1：アンケート票の例

表1：対象施設概要

施設	保育人数	保育者数	園庭の有無	利用する遊び場の数
A	27	6～7	×	8
B	43	10	×	3
C	41	13	×	5
D	45	11	×	25
E	26	6	×	3
F	34	12	×	2
G	21	8	×	5
H	19	8	○	3

握した。

### 3.1 園外活動の頻度

園外活動の頻度は、8施設中7施設で「週5日以上」の回答であり、ほぼ毎日の園外活動を行っている。唯一、園庭のある施設Hでは、『低年齢児であれば園庭での屋外活動で、十分遊べる』という回答がなされ、「週3～4日」の頻度で園外活動が行われていた。このことから、園庭を設置できない狭小地への立地していることが、園外活動の頻度を高める一要因であることが示唆された。

### 3.2 遊び場の種類

日常的に行く遊び場の数は、表1より平均6.8ヶ所であった。20ヶ所の遊び場の中には、公園の他に神社や、近隣の老人ホームのグラウンド、近くに立地する同じ運営会社の経営する認証保育所の施設利用も見られた（図2）。

利用している公園 16 ヶ所のうち、14 ヶ所は街区公園であり、園外の遊び場として、街区公園が大きな役割を果たしていることが確認できた（図 3）。

### 3.3 遊び場の選択理由

利用頻度の高い遊び場を選択した理由として、全体では『適度な広さ』『日当たり・日陰』『保育所からの近さ』の割合が高かった（図 4）。最もよく行く遊び場の選択理由としては『保育所から近さ』『トイレがある』『幼児用遊具』の割合が高く、利用しやすい、設備を重視していることが分かった。

また『他に遊び場がないから』を選択した施設はなかった。いずれの施設も周辺施設を遊び場として積極的に選択、利用している様子が見受けられる。その他の理由としては、安全を重視した『砂場に柵がある』や、子供の関心を惹く『電車が見える』といったものがあつた。

### 3.4 遊び場までの距離

各保育所から遊び場までの歩行距離は、全体平均は 394m であるが、最も利用頻度の高い遊び場までは平均 358m であった（図 7）。これは遊び場の選択理由に、『保育所からの近さ』が挙げられていることを裏付ける。

以上より、園外活動場所への移動は、保育者にとって、園外活動場所を決定する重要な要因であることより、次章では、遊び場までの移動ルートについて分析する。

## 4. 保育所から遊び場までの移動ルート

本章では、アンケートより得られた全 22 ルートを扱う。

### 4.1 移動ルートの選択理由

ルートの選択理由として、最も多く挙げられた項目が『近道だから』、次いで『車の通行が少ない』であった（図 5）。自動車だけでなく、歩行者や自転車の通行量を懸念する意見も多く、「交通量の多い横断歩道よりは、遠回りでも歩道橋を利用する」



図 2: 遊び場の分類（上）

図 3: 利用する公園の分類（下）

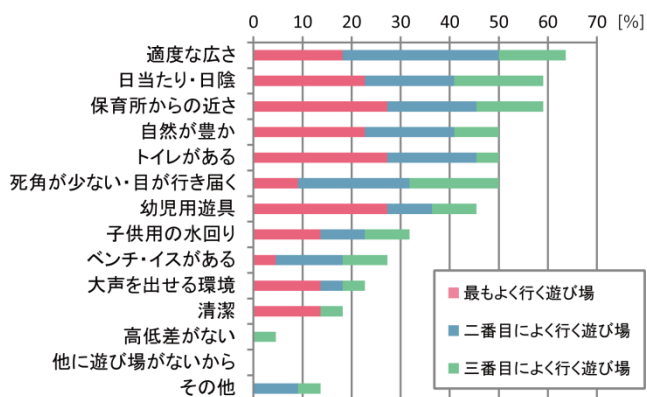


図 4: 遊び場の選択理由

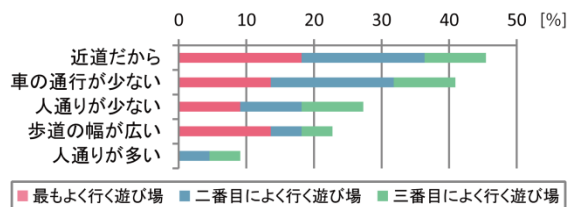


図 5: 移動ルートの選択理由

という例もあつた（ルート C-3）。一方で、最もよく行く遊び場まで、『人通りが少ない』ルートを選択できている保育所は少なく、駅前設置の認証保育所 A 型の園外活動においては、人通りの多い道を通らざるを得ない現状があるといえる。

乳幼児の安全確保のために、『歩道の幅が広い』ルートを選択している場合も、「歩道の幅が広いと、自転車が歩道を通行してしまうため危険」と感じている保育者もあり、その共存は難しい。

### 4.2 各道路の歩行環境による分類

各ルートを、図 6 の歩行区分によって 7 種類に分類、各ルートの目的地の詳細と共にまとめた（図 7）。

子どもの飛び出しに特に注意が必要となる『白線のみ』と『歩道なし』での歩行も数多く見られる。

施設Bは、他施設に比べて、遊び場での滞在時間が長い。ルートに着目すると、安全度の高い歩行区分のみの通行で、遊び場まで行き着くことができ、かつ歩行距離が短い。保育所の立地から、選択できるルートに違いが生じ、このことが遊び場で過ごせる時間にも影響を与えると考えられる。

## 5. おわりに

本研究では、大田区の認証保育所における園外活動場所と移動ルートについて、その選択理由と空間的特性を明らかにした。今後は、施設へのヒアリング、同行調査を実施し、より詳細な歩行環境を把握する。また他市区町村の施設の園外活動との比較を行うことで、遊び場、保育所からのルートの地域差を明らかにすることを今後の展望とする。

ルートの道路区分		歩道あり		白線のみ	歩道なし	車の通行なし
		ガードレール/植栽	緑石/段差			
歩道幅	狭い					
	広い					

図 6:ルートの歩行区分

施設	ルート	遊び場までの歩行距離 [m]	ルートの歩行区分							目的地	滞在時間 [分]	公園の広さ [㎡]	トイレ	遊具	水遊び
			100	200	300	400	500	600	[m]						
A	A-1	694								公園	40	12813	○	○	○
	A-2	310								神社	30	-	×	×	×
	A-3	624								自然	30	-	×	×	×
B	B-1	20								公園	15-45	12813	○	○	○
	B-2	216								自然	15-45	-	×	×	×
	B-3	318								その他	15-45	-	○	×	○
C	C-1	137								公園	20-40	3281	○	○	○
	C-2	463								公園	20-40	336	○	○	×
	C-3	445								公園	20-30	771	×	○	×
D	D-1	234								公園	30-60	331	×	○	×
	D-2	482								公園	30-60	519	○	○	×
	D-3	371								その他	30-60	-	○	×	×
E	E-1	497								公園	15-20	3300	○	○	×
	E-2	324								公園	15	1339	×	○	×
	E-3	481								公園	15	1172	○	○	×
F	F-1	494								公園	30	1088	○	○	○
	F-2	263								公園	30	2246	○	○	×
G	G-1	580								公園	30	814	○	○	×
	G-2	478								公園	30	1409	○	○	×
	G-3	406								公園	30	344	×	○	×
H	H-1	207								公園	20-30	7741	○	×	○
	H-2	634								公園	15-20	828	○	○	×

図 7: 各ルートの歩行区分と目的地

謝辞

アンケートにご協力頂きました大田区の認証保育所の方々には大変お世話になりました。ここに感謝の意を表します。

-参考文献-

- 1) 谷口新・三輪律江・松橋圭子・田中稲子 (2009) 「保育施設における園児の園外活動としてのお散歩に関する考察」, 学術講演梗概集. E-1, p81-82, 日本建築学会
- 2) 古川智之・生田京子・大幡英亮 (2010) 「保育園児の散歩とそのルートからみる地域環境との関係性および環境評価」, 学術講演梗概集. E-1, p821-822, 日本建築学会
- 3) 東京都建設局 HP (2012 年 7 月 30 日取得) <http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/kouen/kouenannai/image/24menseki.pdf> 「東京都都市公園等区市町村別面積・人口割比率表 (平成 24 年 4 月 1 日現在)」
- 4) 公園情報センターHP (2012 年 8 月 16 日) <http://www.kouen.info/>